

日本の女性にとっての性交「同意」とは？ —性暴力被害当事者を中心としたケアを確立するための質的研究—

齋藤梓^{1,2}, 大竹裕子³, 高野歩⁴, 金田智之⁵

¹目白 大学, ²被害者支援都民センター, ³オックスフォード大学／日本学術振興会, ⁴横浜市立大学, ²一般社団法人Spring

日本の刑法における性暴力（レイプ）の定義

被害者が抵抗できないほどの暴行または脅迫が必要。
✓ 「不同意性交」だけではレイプにならない。

重要な議論

- ・「不同意性交」は被害者の主観に過ぎない。
- ・暴行脅迫がなければレイプの証拠になるものがない。
- ・検察庁や裁判所は「暴行脅迫のないレイプ」を正しく判断できると考えている（実際には現実を知らず、できていない）。

文化的な問題

- ・目上の人に明確な不同意や拒否を示すことがよしとされない文化。
- ・特に、女性は性交において明確な拒否を示せない。

目 的（以下を明らかにする）

1. 暴行脅迫のない不同意性交はどのようにして起こるのか？
2. 日本の女性はどのようにして性交に同意を与えているのか？

方 法

- ・対象：26名(22-55歳)の成人女性（当事者団体、ウェブサイト、紹介を通じたリクルート）。
- ・データ：インタビュー及びウェブ上の自記式語り。
- ・分析手法：テーマ分析を用いた、インタビュー逐語録と自記式語りにおける共通テーマの抽出。
- ・調査チームのトレーニング：WHOガイドラインに準じて実施。

結 果—レイプは日常の中で起きている—

「陥れ・追い込み」型レイプ（最も典型的なパターン・図）、
飲酒・薬物使用型レイプ、奇襲型レイプ、児童期の性虐待、パートナー・レイプなど。

男女間の不同意性交：「陥れ・追い込み」型レイプ

日常会話の中で 上下関係を作り上げる

- ・男性加害者が自分の価値を高め、権威づける
- ・脅しやおとしめる言葉を使って女性被害者を弱体化させる

逃げ場をふさぐ

被害者を死角(暗い所や車の中など)に追い込み逃げ場をふさぐ

性的な話題に

すり替える

突然、日常会話を性的な話題にすり替える

性交を 強要

促進要因

- ・男性加害者は女性被害者よりも社会的地位が高く、評価を与える立場にある（例：教師、上司など）
- ・女性被害者はその男性を尊敬している、恋愛感情がある

文化・ジェンダー規範

- ・従順さをよしとする
- ・人間関係では波風を立てるべきでない

路上のアンケート調査から性交の強要に追い込まれた例（36歳・女性）

年齢はやっぱり向こうが上なので（そもそも断りづらい）。[…]（最初は）下手な感じで、[…]（相手が）ぺこぺこしてる感じだったんだけど。[…] こっちがどこどこ大学とか個人情報を出し始めると、[…] 先生みたいな感じで上から話して来るようになって、それが固定したところで、パッと連れ込むっていうことでした。[…] たぶん、「彼氏いるの」って聞かれたりとか、答えづらいことを聞かれて、こっちが口ごもってるって、うつむいてる——[…] で、口ごもったところで（暗い路地裏に連れ込んで犯行に及ぶ）っていう感じでした。



男女間の同意性交—生活の中での尊重から愛のあるセックスへ

尊重し合う対等なコミュニケーションが 日常生活の中にある

- ・女性は自分の意思や拒否を男性に伝えられる
- ・男性は生活の様々な場面で女性の意思を確認し、拒否されたらそれを尊重している

尊重し合う
コミュニケーションが続く

愛のある セックス

上下関係を作り出された上での不同意性交は**性暴力**

生活の中で互いに尊重しあう関係があった上での性交（38歳・女性）

全ての日常的な仕草で、[…] こう何ていうのかな、従わなきゃいけないとか、従わせなきゃいけないみたいな、主従関係っていうか、そういうことがないっていうか。嫌なときは嫌って言っていいていうのが。日常的な、例えば、メニューを選ぶときとか、どこに行きたいっていうこととかも含めて（こちらの意向を聞いてくれる）。よく考えたら、（それが、性生活も含め）全てのことに影響するんだろうなって思う。



日常生活で尊重し合う関係が
あつての同意性交は**愛のあるセックス**



結 論：「性交に及ぶ以前の日常的な関係性や接し方」が、同意・不同意性交を左右。

1. 暴行脅迫のない不同意性交は、日常的な上下関係（力関係）の圧力から陥れられ・追い込まれる形で発生していた。⇒刑法では性暴力と認められないが、最も典型的な被害経験のパターン。
2. 心から性交に同意する場合、女性たちはまず、互いを尊重し合う対等な関係性を結び、その延長として性交にも同意を与えていた。⇒生活の中で尊重し合うコミュニケーションは性交同意に不可欠。

➤ 「性交に至る以前の上下関係（力関係）の構築」があったか否かは性暴力を規定する重要な要因であり、刑法改正の議論において考慮される必要がある。

今後の研究：上下関係が作り出されてゆくプロセス、飲酒・薬物、過去の被害の影響等について更に検討。

連絡先：spring0research@gmail.com